

# 北海道浮魚ニュース

平成 25 ( 2013 ) 年度 14 号

2013 年 8 月 30 日

道総研水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## 日本海スルメイカ沖合海洋観測調査結果

8 月 19 日 ~ 23 日の期間、北海道南部日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 ( 151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備 ) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

**調査海域のスルメイカ分布密度は昨年を下回った。魚体サイズは昨年及び過去 3 年平均より小さい。**

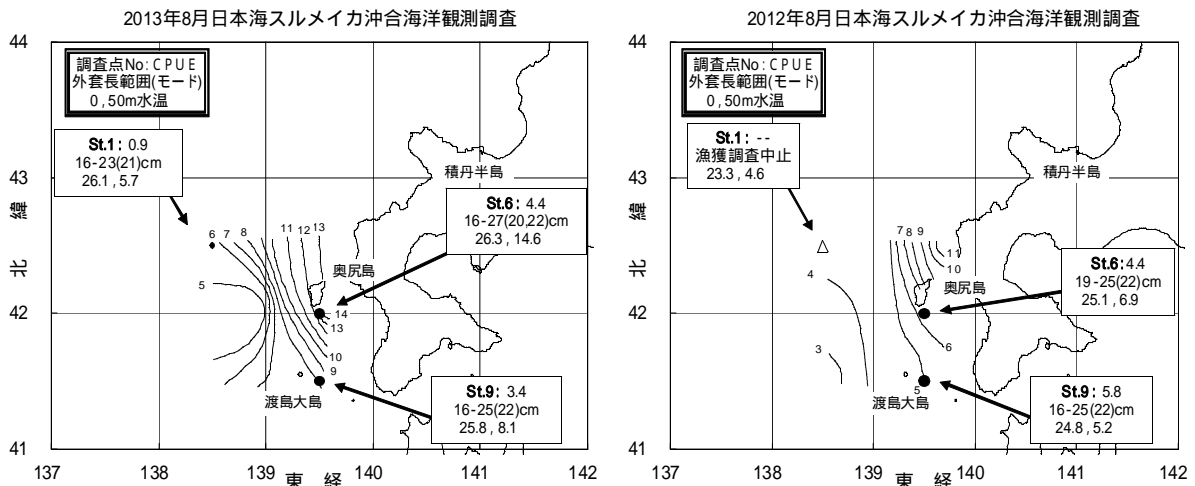


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 ( 2012 年との比較 )。 は漁獲調査点を示し大きさは CPUE に比例。 は釣獲調査中止。等温線は水深 50m の水温 ( )

### 1 . 水温分布 ( 図 1 )

漁獲調査点 3 地点の表面水温は 25.8 ~ 26.3 ( 昨年 23.3 ~ 25.1 )、水深 50 m の水温は 5.7 ~ 14.6 ( 昨年 4.6 ~ 6.9 ) の範囲にあり、いずれも全ての調査点で昨年を上回りました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m 層の水温は全体的に昨年より高く、昨年ほとんど見られなかった水温 10 以上の海域が今年は檜山沖以北の沿岸の広い範囲に広がっており、特に奥尻海峡周辺の海域で水温が高くなっていました。

### 2 . 分布密度 ( 図 1 )

漁獲調査点 3 地点の平均 CPUE ( 2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数 ) は 3.0 ( 昨年 5.1 ) で、調査が現在の形となった 2010 年以降で最も低い値となりました。各調査点の

うち CPUE が最も高かったのは奥尻島南 St.6 (4.4) で、全体的に沿岸寄りで CPUE が高くなる傾向が見られました。

### 3. スルメイカの大きさ

調査海域全体のスルメイカ外套長(胴長)の範囲は 13 ~ 27cm (昨年 14 ~ 25cm) でした。最も多く出現したイカの大きさ(モード)は 19cm (昨年 22cm) でした。全体的な魚体サイズは昨年及び過去 3 年平均より小型で、特に、過去 3 年の調査であまり見られなかった小型の個体が多く出現しました(図 2)。漁獲調査を実施した 3 地点の外套長のモードは 20 ~ 22cm (昨年 22cm) にありました(図 1)。

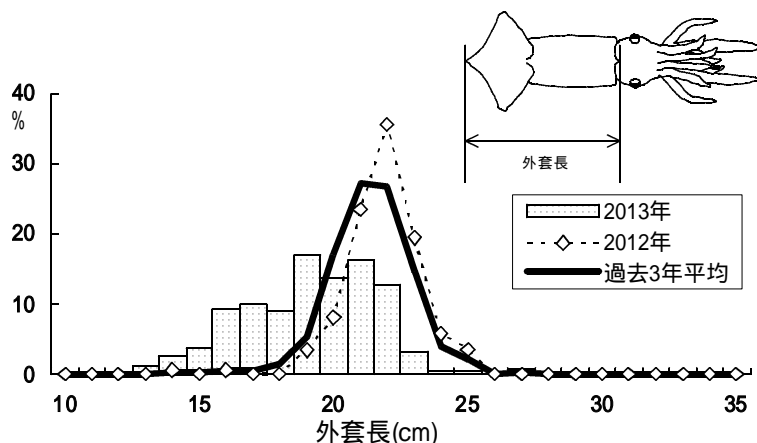


図 2 調査海域全体の外套長組成の経年比較

(文責：函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991)